

岡山県感染症週報 2016 年 第 16 週 (4 月 18 日～4 月 24 日)

◎次週、2016 年 第 17 週 (4/25～5/1) の感染症週報は、5 月 13 日 (金) にホームページに掲載いたします。

岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

◆2016 年 第 16 週 (4/18～4/24) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

- 第 14 週 5 類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 名 (50 代 男)
 第 15 週 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O 型別不明: 40 代 女)
 4 類感染症 レジオネラ症 2 名 (70 代 男 1 名、80 代 女 1 名)
 5 類感染症 梅毒 1 名 (20 代 男)
 第 16 週 2 類感染症 結核 2 名 (30 代 女 1 名、70 代 女 1 名)
 3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157: 20 代 男)
 5 類感染症 ウイルス性肝炎 1 名 (60 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数: インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 161 名 (定点あたり 2.86 → 1.92 人) の報告があり、前週より減少しました。
 ○感染性胃腸炎は、県全体で 268 名 (定点あたり 4.89 → 4.96 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。
 ○流行性耳下腺炎は、県全体で 71 名 (定点あたり 1.13 → 1.31 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。

【第 17 週 速報】

- 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157: 20 代 男) の発生がありました。(4 月 25 日)
 ○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。(4 月 25 日～4 月 27 日)

1. インフルエンザは、県全体で 161 名 (定点あたり 2.86 → 1.92 人) の報告があり、前週より減少しました。岡山県は、『インフルエンザ注意報』を発令し、注意喚起を図っています。地域別では、備北地域 (2.83 人)、倉敷市 (2.44 人)、岡山市 (2.18 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは、「インフルエンザ週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016 年シーズン インフルエンザ情報](#)』をご覧ください。
2. 感染性胃腸炎は、県全体で 268 名 (定点あたり 4.89 → 4.96 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備前地域 (6.20 人)、倉敷市 (5.27 人)、岡山市 (4.93 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。ひきつづき手洗いの徹底や下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。県内の発生状況など詳しくは、「感染性胃腸炎週報」及び岡山県感染症情報センターホームページ『[2015/2016 年 感染性胃腸炎情報](#)』をご覧ください。
3. 流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)は、県全体で 71 名 (定点あたり 1.13 → 1.31 人) の報告があり、前週とほぼ同数でした。地域別では、備北地域 (4.50 人)、備前地域 (1.80 人)、岡山市 (1.43 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。特に備北地域では、前週より減少 (定点あたり 6.25 → 4.50 人) しましたが、他の地域と比較して多い状態が続いており、ひきつづき発生レベル 3 となっています。この感染症は、予後は一般に良好ですが、まれに無菌性髄膜炎、感音性難聴、精巣炎などの合併症を引き起こすことがあり、年齢が高くなるにつれて症状が重くなる傾向があります。効果的に予防する唯一の方法は、ワクチンを接種することです。
4. 腸管出血性大腸菌感染症は、第 15 週に 1 名、第 16 週に 1 名の発生報告があり、岡山県の 2016 年第 16 週 (～4/24) までの累計報告数は 6 名となりました。4 月に入って 4 名が相次いで報告されており、さらに第 17 週にも 1 名の報告があります。

例年 5～6 月頃から徐々に増加する傾向にあります。手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

【お知らせ】

ゴールデンウィークに海外へ旅行される方に向けた感染症情報が、厚生労働省のホームページに掲載されています。

[ゴールデンウィークにおける海外での感染症予防について \(厚生労働省\)](#)
[ゴールデンウィークに海外へ渡航される皆さまへ! \(厚生労働省検疫所\)](#)

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★★	RSウイルス感染症		★
咽頭結膜熱		★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★★
突発性発疹		★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎			クラミジア肺炎		
感染性胃腸炎(ロタウイルス)		* 感染性胃腸炎(ロタウイルス)については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移：
 : 2 倍以上の減少 : 1.1～2 倍未満の減少 : 1.1 未満の増減
 : 1.1～2 倍未満の増加 : 2 倍以上の増加
発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。
空白:発生なし ★: 僅か ★★: 少し ★★★: やや多い ★★★★: 多い ★★★★★: 非常に多い

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

これからの季節、レジャーや山菜採りなど、野外で活動する機会が増えます

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。春から秋(3～11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。

【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤(ディート成分を含むもの)を噴霧しましょう。(虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】 ～マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません～

- ◎マダニが皮膚についていることに気がついた場合、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。
 - ◎自分でマダニを取り除いた場合、数日から2週間程度は体調の変化に注意をし、発熱・発疹等の症状が認められたときは、速やかに医療機関を受診してください。その時、マダニがついていたことを伝えてください。
- ※取り除いたマダニは保存しておき、医療機関を受診する際、持参してください。

【症状がでたとき】

- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発疹等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その時、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。

★★ くわしくは、こちらへ ★★

⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関する Q&A \(厚生労働省\)](#)

⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)

インフルエンザ週報 2016 年 第 16 週 (4 月 18 日 ~ 4 月 24 日)

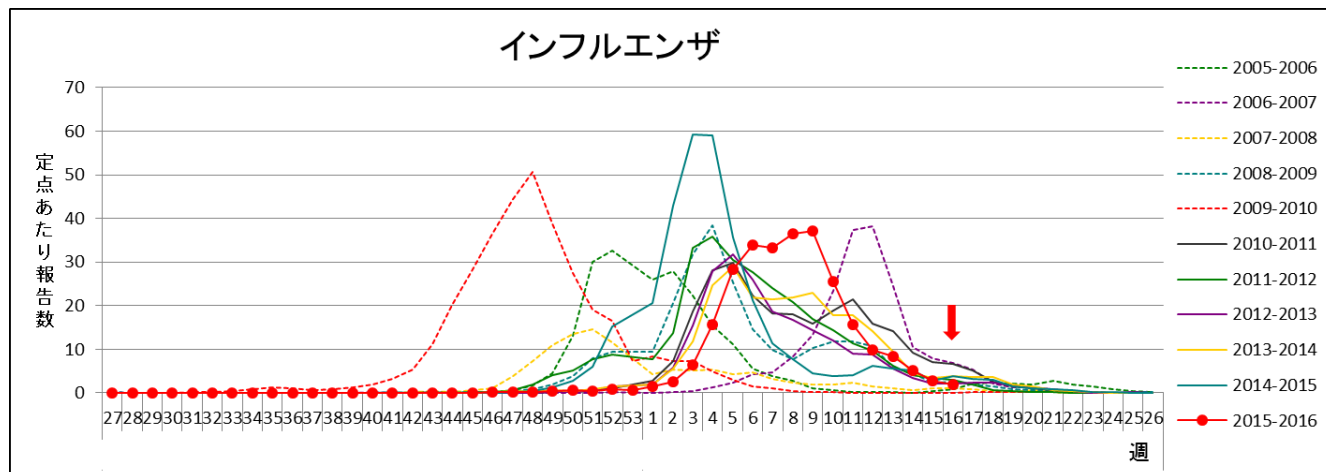
岡山県は『インフルエンザ注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 161 名（定点あたり 1.92 人）の報告がありました。（84 定点医療機関報告）
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。
- インフルエンザによる入院患者 2 名の報告がありました。

【第 17 週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 2 施設でありました。（4 月 25 日～4 月 27 日）



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ~ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

インフルエンザは、県全体で 161 名（定点あたり 2.86 → 1.92 人）の報告があり、前週より減少しました。県全体の報告数は、第 9 週をピークに大きく減少してきていますが、第 17 週には小中学校でインフルエンザによるとみられる学級閉鎖も発生しています。地域別では、備北地域（2.83 人）、倉敷市（2.44 人）、岡山市（2.18 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。まだしばらく流行はつづくと思われ、岡山県は、「インフルエンザ注意報」を発令し、ひきつづき注意喚起を図っています。

流行のピークは過ぎ、患者は減少してきていますが、『外出後や食事前の手洗いを徹底する』『人混みでは、マスクを着用する』『十分な睡眠をとる』など、ひきつづき感染予防に努めてください。また症状のある方は早めに医療機関を受診しましょう。

◆インフルエンザは、まだ流行しています ひきつづき感染予防に努めましょう

【 予 防 】

- * 外出後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- * 人混みでは、マスクを着用しましょう。
- * 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- * 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度(50～60%)を保ちましょう。

【 かかったかな？という時には 】

- * 早めに医療機関を受診しましょう。
- * 周りの人にうつさないように、「咳エチケット」を心がけましょう。
- * 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

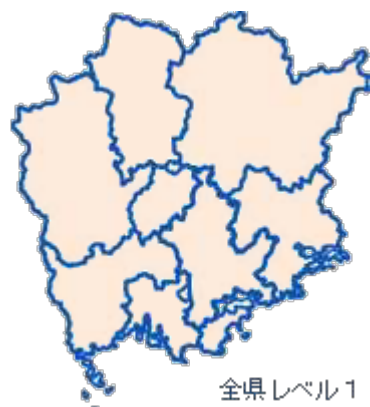
1.地域別発生状況

前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	161	↓	備 中	患者数	18	↓
	定点あたり	1.92			定点あたり	1.50	
岡山市	患者数	48	→	備 北	患者数	17	↓
	定点あたり	2.18			定点あたり	2.83	
倉敷市	患者数	39	↓	真 庭	患者数	5	↓
	定点あたり	2.44			定点あたり	1.67	
備 前	患者数	17	↓	美 作	患者数	17	↓
	定点あたり	1.13			定点あたり	1.70	

【記号の説明】 前週からの推移
 ↓：2倍以上の減少 ↓：1.1～2倍未満の減少 →：1.1未満の増減
 ↑：1～2倍未満の増加 ↑：2倍以上の増加

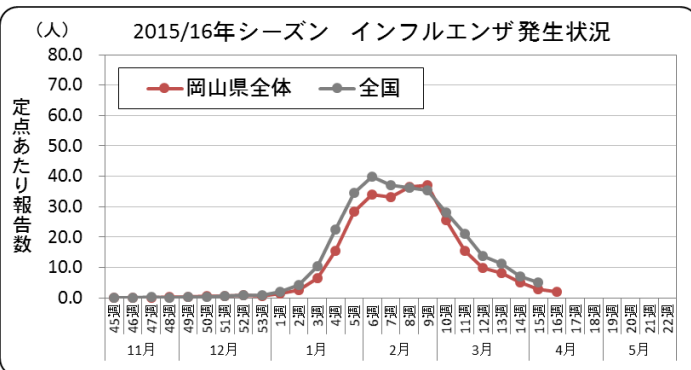
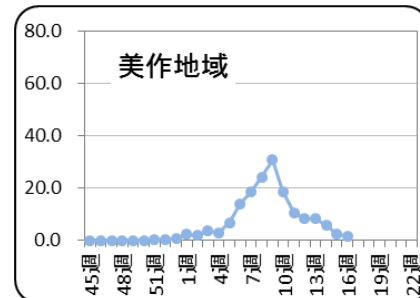
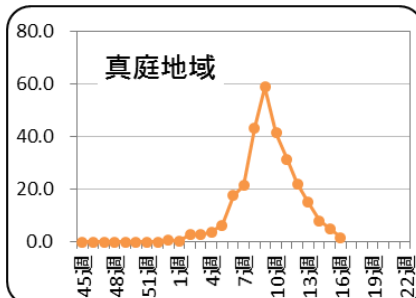
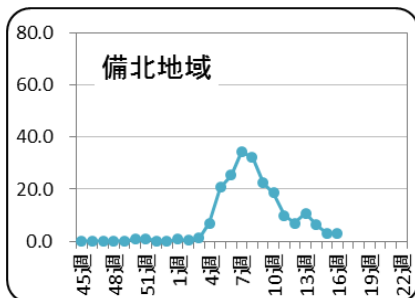
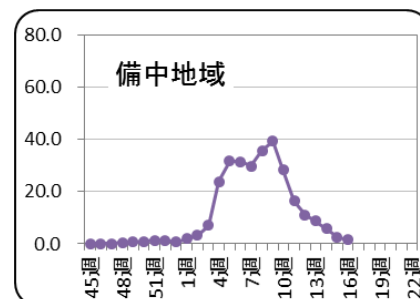
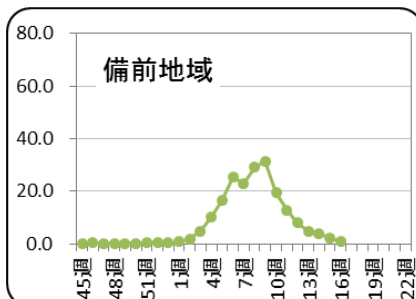
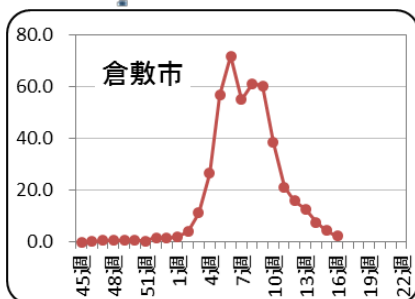
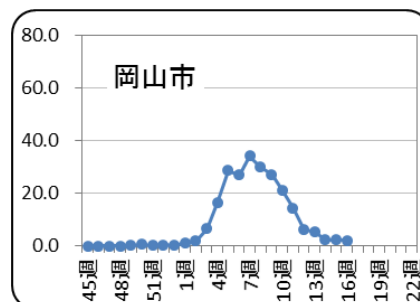
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10以上 30未満

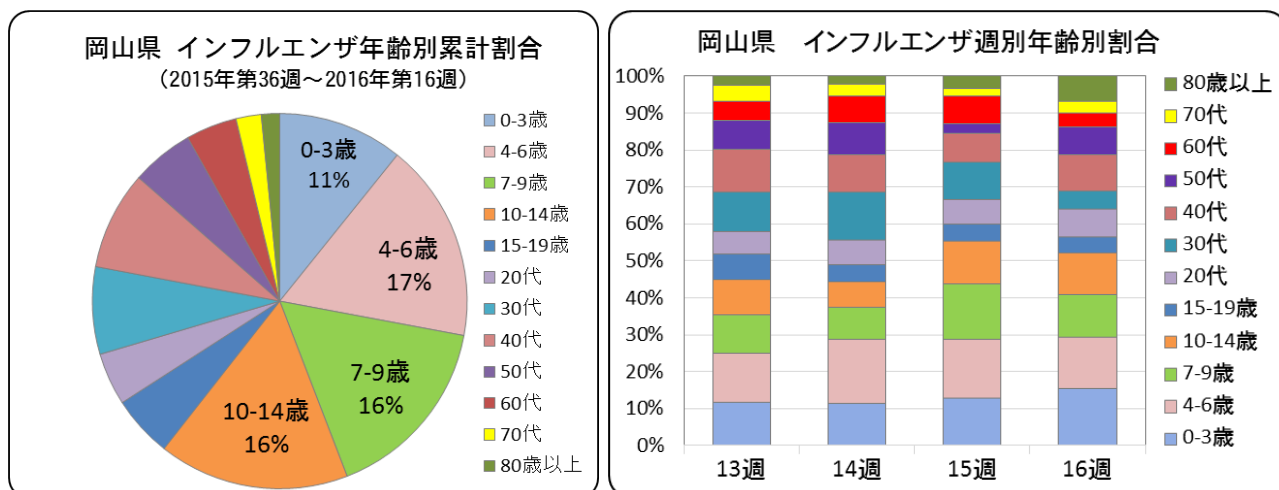
レベル1	報告なし
基準値	基準値
0< 10未満	0



全国集計第15週（4/11～4/17）速報値によると、全国の定点あたり報告数は5.06人となり、前週（7.02人）より減少しました。都道府県別では、秋田県（15.13人）、岩手県（13.67人）、青森県（13.65人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。

2. 年齢別発生状況

今シーズンの年齢別累計割合は、4-6歳 17%、7-9歳・10-14歳 各16%、0-3歳 11%の順で高くなっています。

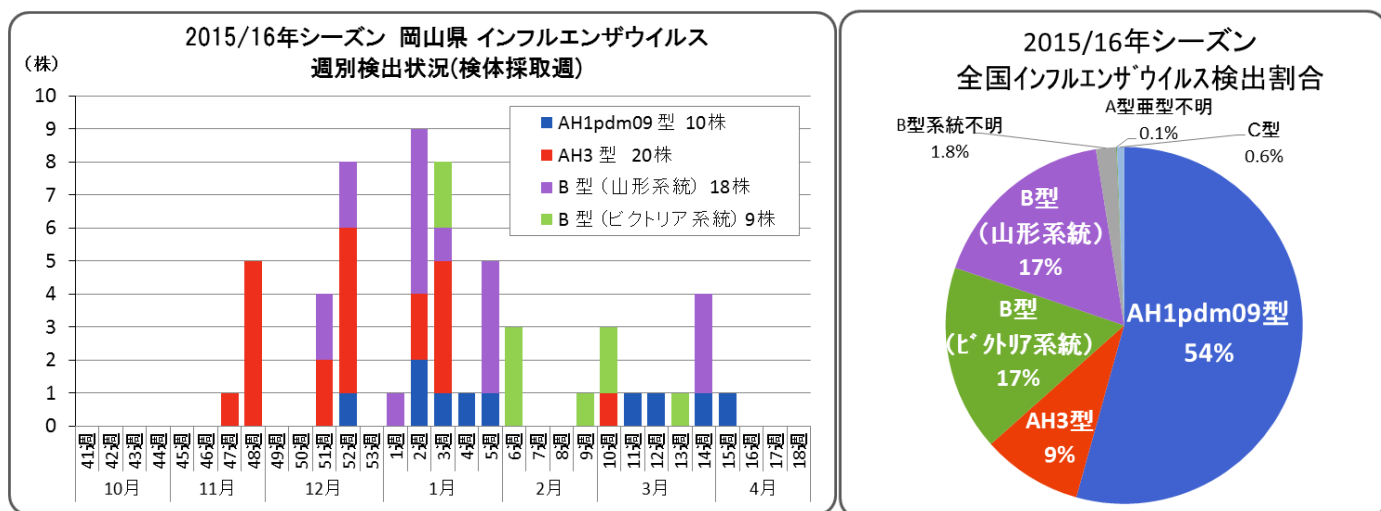


3. インフルエンザウイルス検出状況

第16週、環境保健センターで判明したインフルエンザウイルスは、6株（詳細は下表参照）でした。今シーズン、これまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、B型 27株〔山形系統 18株・ビクトリア系統 9株〕（48%）、AH3型 20株（35%）、AH1pdm09型 10株（17%）となっています。

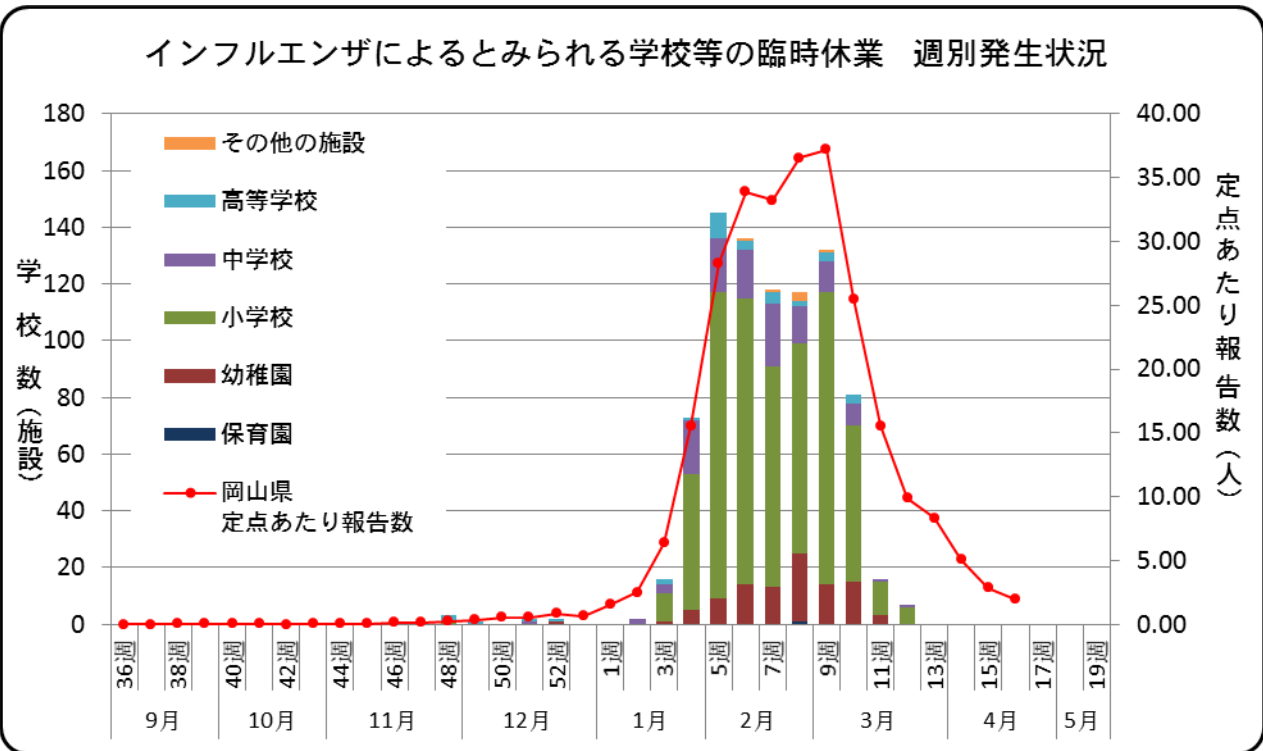
今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型の検出割合が最も多く54%、次いでB型が34%〔ビクトリア系統 17%・山形系統 17%〕、AH3型が9%の順となっています。（2016年4月22日現在）

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2016年第15週（4/11～4/17）	2016/4/12	岡山市	60代	女	
インフルエンザウイルスB型	2016年第14週（4/4～4/10）	2016/4/8	岡山市	40代	男	山形系統
インフルエンザウイルスB型	2016年第14週（4/4～4/10）	2016/4/7	岡山市	中学生	男	山形系統
インフルエンザウイルスB型	2016年第14週（4/4～4/10）	2016/4/6	岡山市	50代	女	山形系統
インフルエンザウイルスAH1pdm09型	2016年第14週（4/4～4/10）	2016/4/5	倉敷市	70代	女	
インフルエンザウイルスB型	2016年第13週（3/28～4/3）	2016/4/2	備中	幼児	女	ビクトリア系統



4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	0	13119	0	10036	0	851	0	20	0	197	0	634	H27.11.24
岡山市	0	5048	0	3741	0	292	0	2	0	41	0	249	H27.11.24
倉敷市	0	3658	0	2811	0	224	0	6	0	18	0	200	H27.12.15
備前地域	0	1137	0	933	0	89	0	1	0	40	0	48	H27.11.24
備中地域	0	1784	0	1425	0	132	0	0	0	36	0	96	H27.11.24
備北地域	0	316	0	222	0	32	0	3	0	25	0	4	H28. 2. 3
真庭地域	0	315	0	284	0	23	0	2	0	19	0	2	H28. 2. 1
美作地域	0	861	0	620	0	59	0	6	0	18	0	35	H28.1.25

2) 臨時休業施設数の内訳

第 16 週 : 0 施設

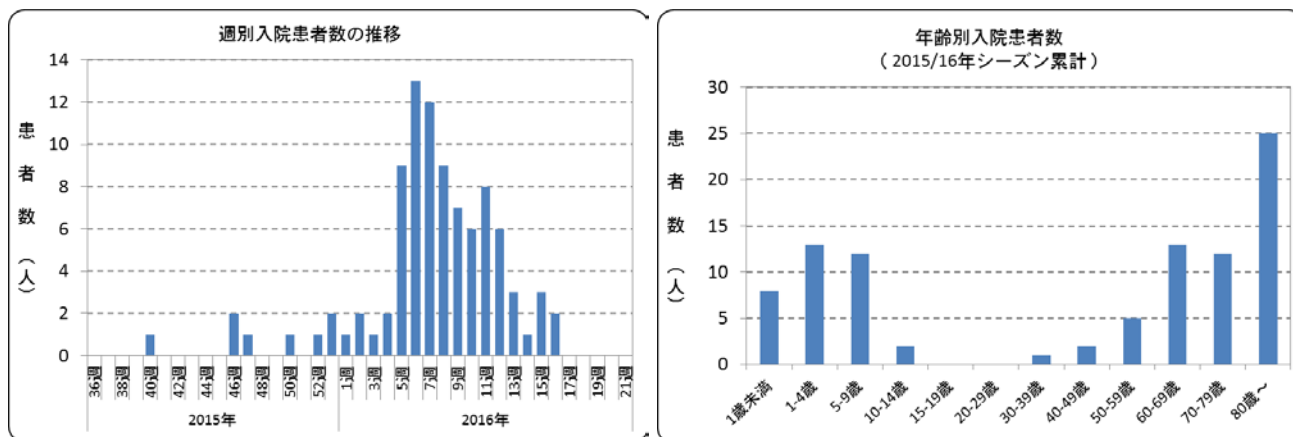
累計 : 851 施設

	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	0	1	0	99	0	596	0	117	0	32	0	6

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、2 名（1 歳未満 1 名、5～9 歳 1 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずとうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。



【第 16 週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数	1		1										2
ICU 入室													
人工呼吸器の利用													
頭部 CT 検査(予定含)													
頭部 MRI 検査(予定含)													
脳波検査 (予定含)													
いずれにも該当せず	1		1										2

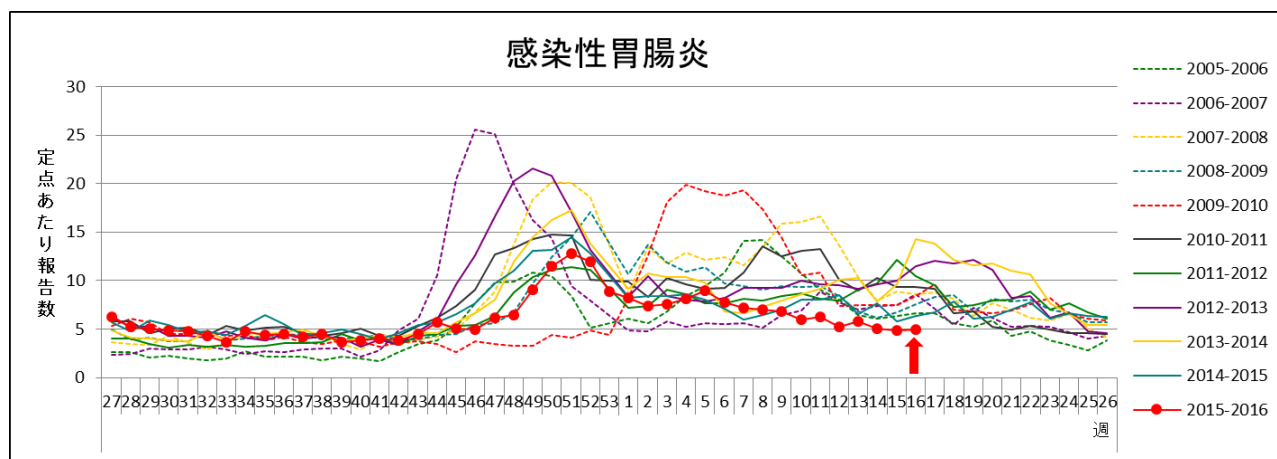
【2015 年 8 月 31 日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数	8	13	12	2			1	2	5	13	12	25	93
ICU 入室 *			1						1	1	1		4
人工呼吸器の利用 *			1						1	1	1		4
頭部 CT 検査(予定含) *		5							1	3	1	6	16
頭部 MRI 検査(予定含) *		2		1						1		1	5
脳波検査 (予定含) *		1	1										2
いずれにも該当せず	8	7	11	1			1	2	2	9	9	19	69

* 重複あり

感染性胃腸炎週報 2016 年 第 16 週 (4 月 18 日 ~ 4 月 24 日)

○感染性胃腸炎は、県全体で 268 名（定点あたり 4.89 → 4.96 人）の報告がありました。（54 定点医療機関報告）

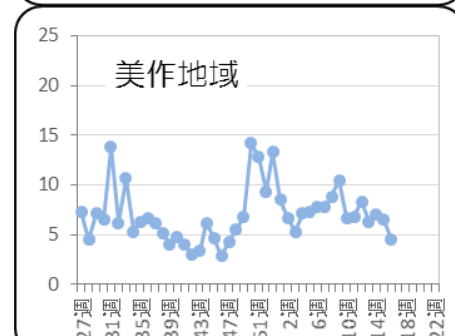
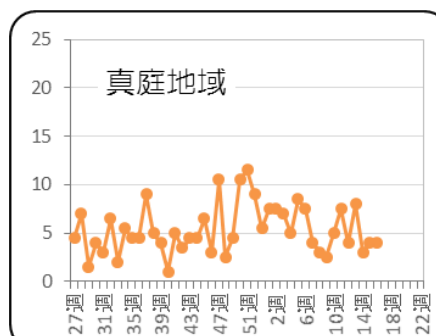
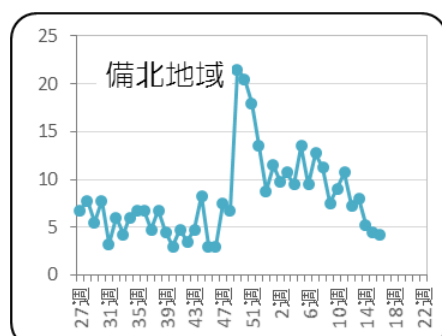
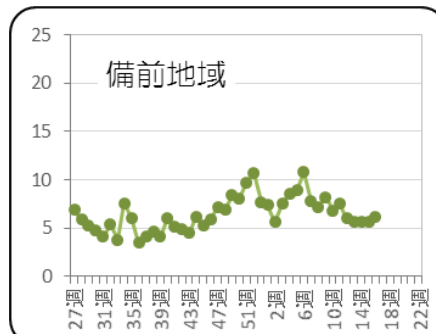
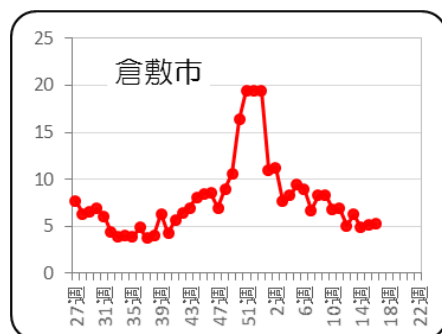
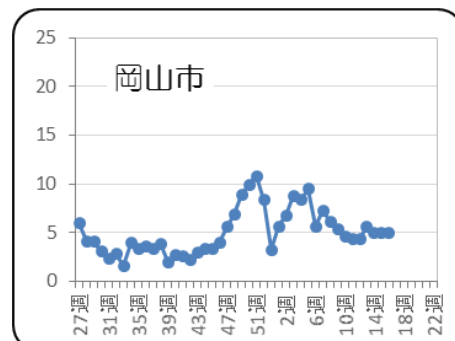
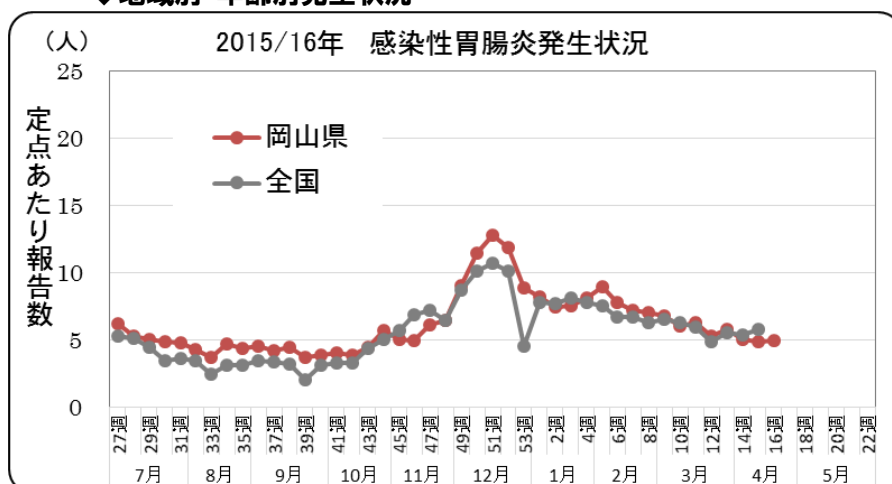


※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27 週～翌年 26 週でグラフを作成しています。

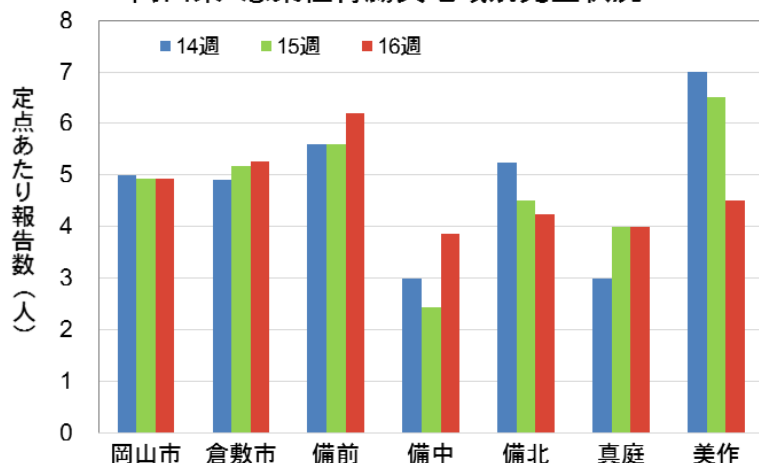
感染性胃腸炎は、県全体で 268 名（定点あたり 4.89 → 4.96 人）の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去 10 年間の同時期と比較して、患者報告数は少ない状態ですが、依然として患者の発生は続いています。

冬から春にかけての感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスやロタウイルスなどのウイルスによるものが多いとされています。排便後、調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗う、下痢便・おう吐物を適切に処理するなど、感染予防と拡大防止に努めてください。

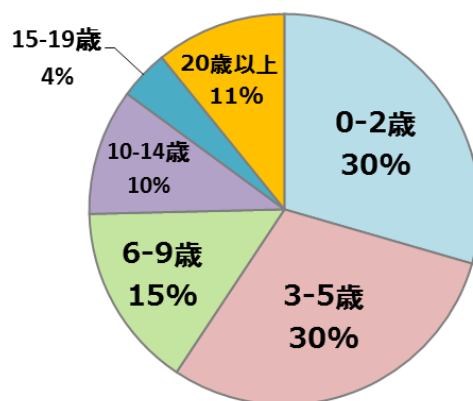
◆地域別・年齢別発生状況



岡山県 感染性胃腸炎地域別発生状況



感染性胃腸炎 年齢別割合 (第16週)



地域別では、備前地域（6.20人）、倉敷市（5.27人）、岡山市（4.93人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。第16週年齢別割合では、0-2歳・3-5歳 各30%、6-9歳 15%、20歳以上 11%の順となっています。

例年3～5月には、0～2歳の乳幼児を中心にロタウイルスによる胃腸炎が増加するとされています。主な症状はおう吐と下痢で、ノロウイルスによる胃腸炎に比べ重症度が高いといわれています。おう吐や下痢により脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

[ロタウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

[ノロウイルスに関するQ&A（厚生労働省）](#)

◆◆ ノロウイルスに感染しないためには ◆◆

1. 最も大切なことは手を洗うことです。

排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

2. 処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。

おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。

3. おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、**85℃で1分以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも代用可）**での消毒が有効です。

おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、付着した汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗いした後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。

※塩素系漂白剤の使用に当たっては「使用上の注意」を確認しましょう。

4. 食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心部を85～90℃で90秒間以上）

二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

保健所別報告患者数(定点把握) 2016年 16週

(2016/04/18～2016/04/24)

2016年4月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	161	1.92	48	2.18	39	2.44	17	1.13	18	1.50	17	2.83	5	1.67	17	1.70
RSウイルス感染症	6	0.11	4	0.29	1	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.17
咽頭結膜熱	21	0.39	8	0.57	1	0.09	—	—	—	—	—	—	2	1.00	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	1.13	11	0.79	25	2.27	1	0.10	5	0.71	7	1.75	—	—	12	2.00
感染性胃腸炎	268	4.96	69	4.93	58	5.27	62	6.20	27	3.86	17	4.25	8	4.00	27	4.50
水痘	9	0.17	4	0.29	4	0.36	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
手足口病	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	20	0.37	3	0.21	5	0.45	4	0.40	—	—	—	—	1	0.50	7	1.17
突発性発疹	19	0.35	5	0.36	9	0.82	3	0.30	—	—	—	—	—	—	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	71	1.31	20	1.43	8	0.73	18	1.80	3	0.43	18	4.50	1	0.50	3	0.50
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	2	0.50	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	0.40	2	2.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数(発生レベル設定疾患) 2016年 16週

(2016/04/18～2016/04/24)

2016年4月28日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	161	1.92	48	2.18	39	2.44	17	1.13	18	1.50	17	2.83	5	1.67	17	1.70
咽頭結膜熱	21	0.39	8	0.57	1	0.09	—	—	—	—	—	—	2	1.00	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	1.13	11	0.79	25	2.27	1	0.10	5	0.71	7	1.75	—	—	12	2.00
感染性胃腸炎	268	4.96	69	4.93	58	5.27	62	6.20	27	3.86	17	4.25	8	4.00	27	4.50
水痘	9	0.17	4	0.29	4	0.36	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
手足口病	1	0.02	—	—	—	—	—	—	1	0.14	—	—	—	—	—	—
伝染性紅斑	20	0.37	3	0.21	5	0.45	4	0.40	—	—	—	—	1	0.50	7	1.17
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	1	0.02	1	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性耳下腺炎	71	1.31	20	1.43	8	0.73	18	1.80	3	0.43	18	4.50	1	0.50	3	0.50
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	5	0.42	2	0.40	2	0.50	—	—	1	1.00	—	—	—	—	—	—

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2016年 第16週 2016/04/18～2016/04/24)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	161	2	2	4	7	10	9	4	9	9	7	3	18	7	12	8	16	12	6	5	11

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	6	2	2	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	21	-	4	8	1	1	-	2	3	1	1	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	61	-	1	1	9	6	6	7	8	4	5	3	6	-	5
感染性胃腸炎	268	2	17	34	26	26	27	27	9	12	13	7	28	11	29
水痘	9	-	-	1	1	1	-	2	-	1	2	1	-	-	-
手足口病	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	20	-	-	-	1	4	2	4	5	2	2	-	-	-	-
突発性発疹	19	-	8	8	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	71	-	-	5	10	12	9	14	8	5	-	4	1	-	3

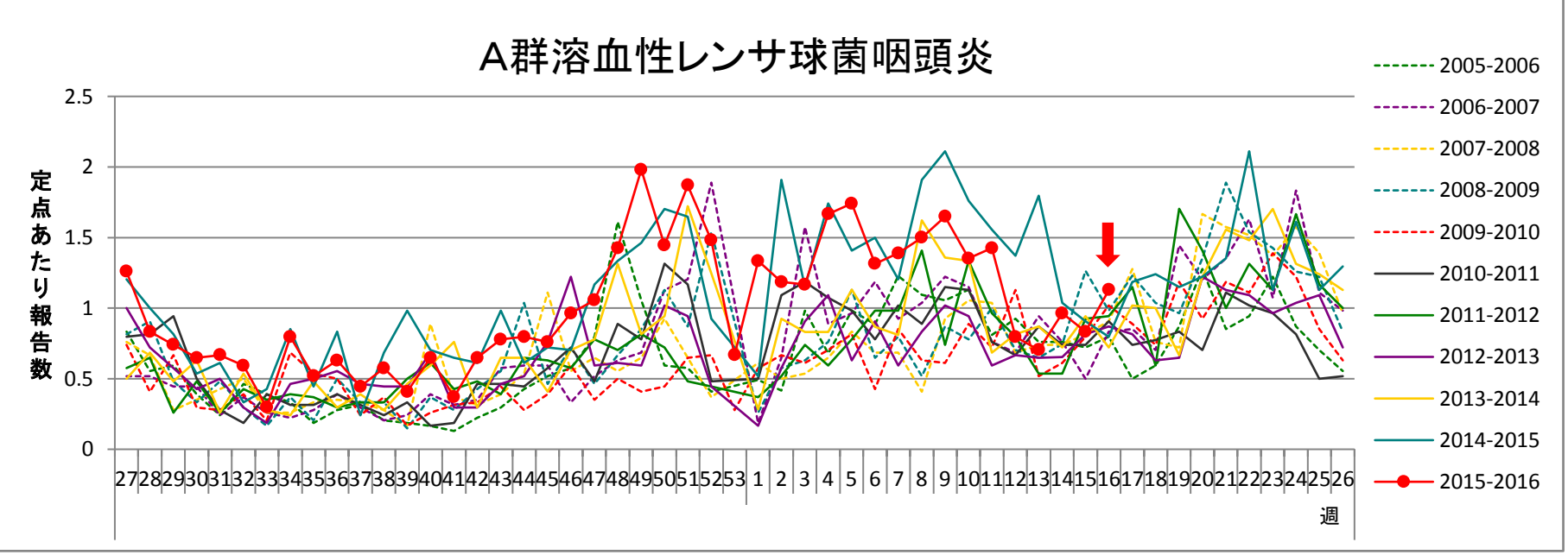
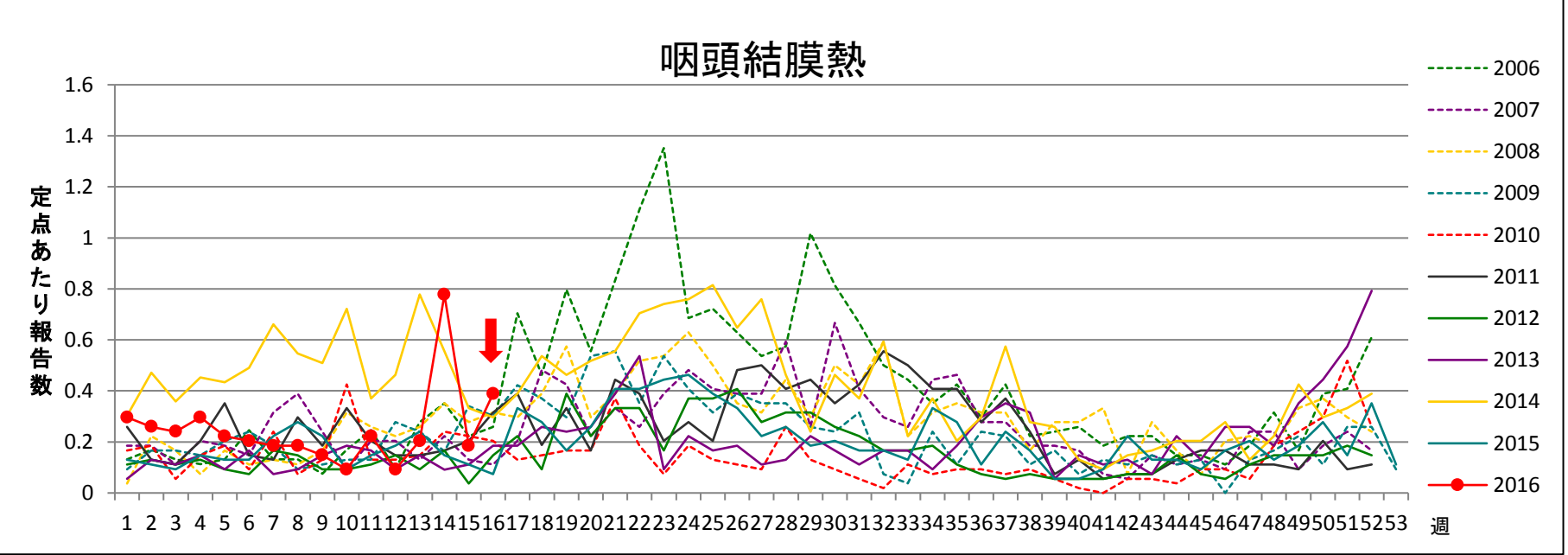
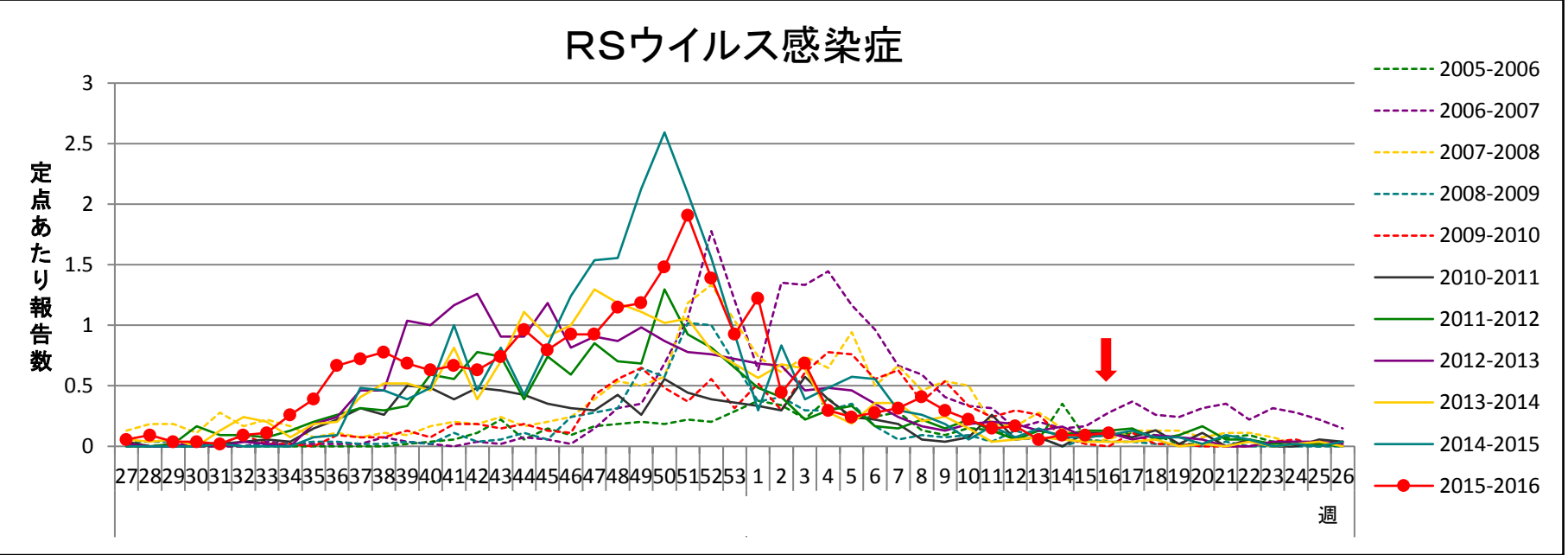
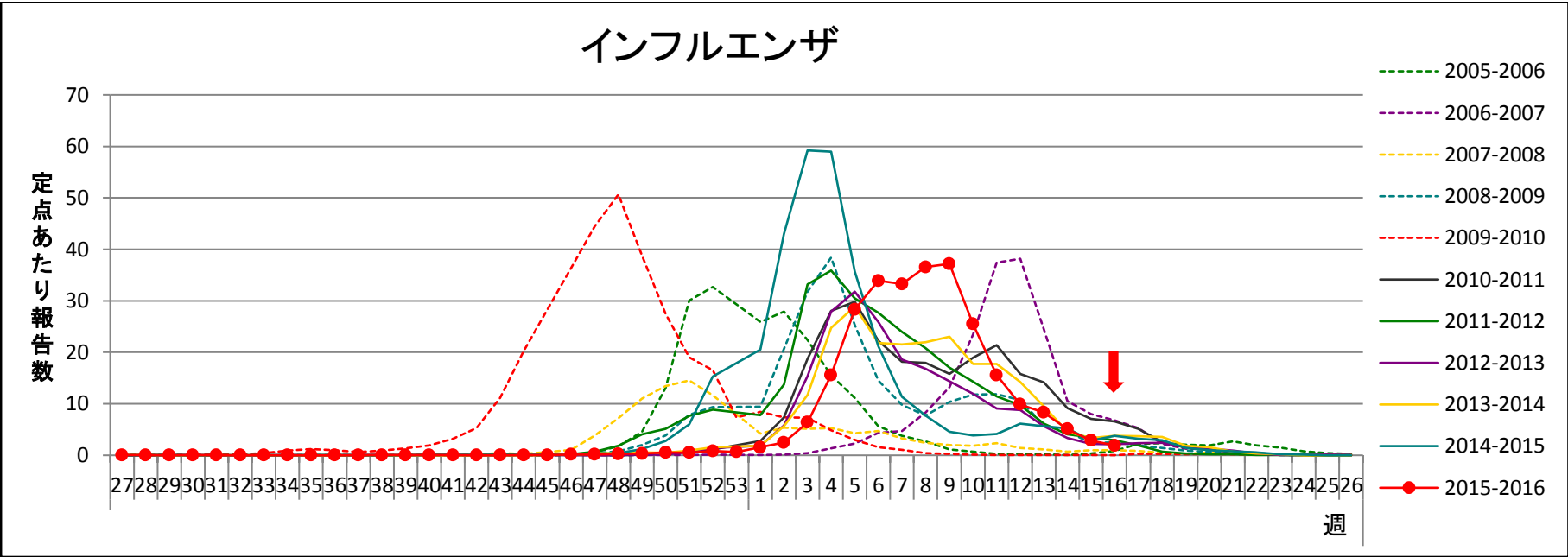
疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	2	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	2	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

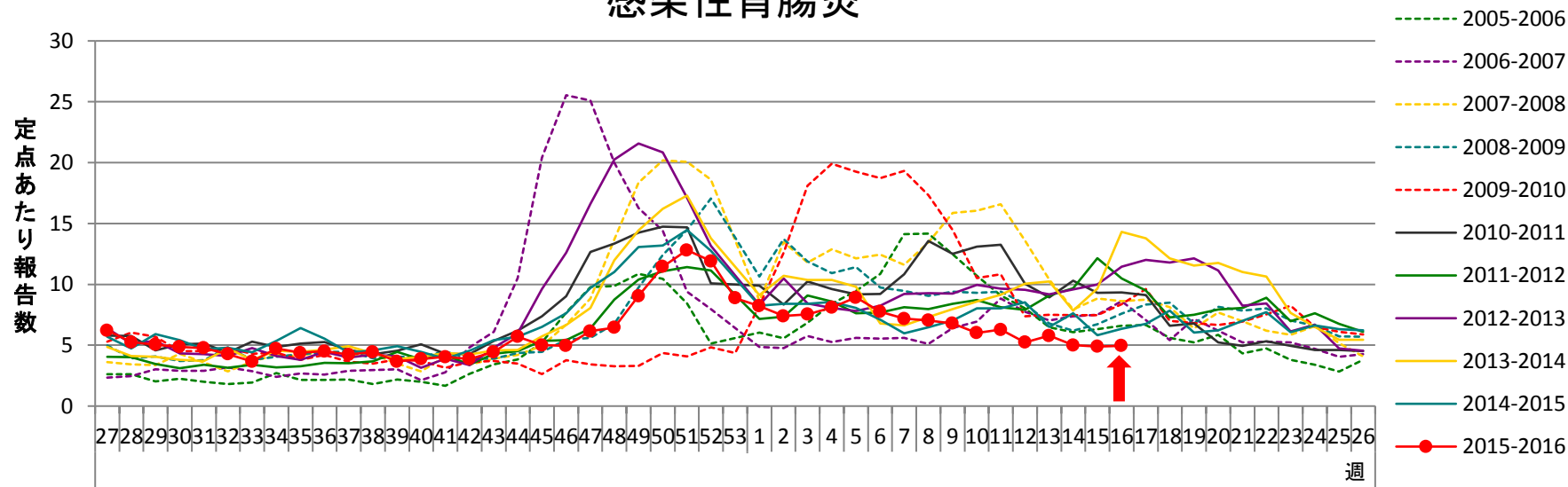
(- : 0)

2016 年 16 週

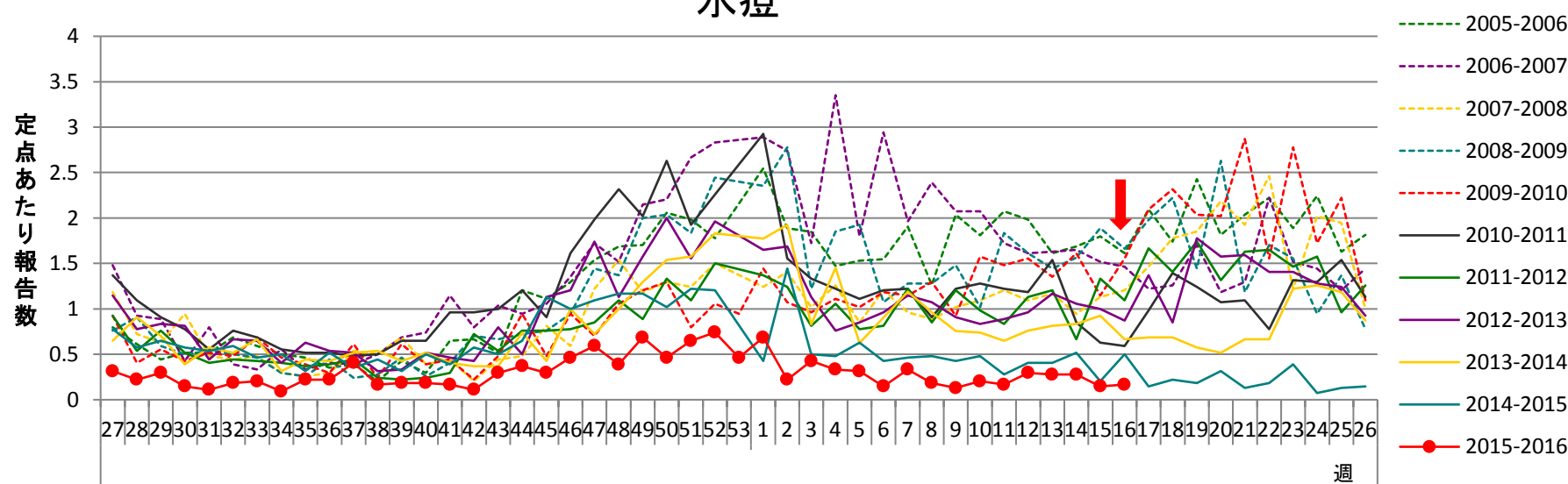
分類	疾病名	2016		2015	疾病名	2016			2015	疾病名	2016		2015
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	今週		累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-		痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ベスト	-	-	-		マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-			-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	2	78	373		ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-		鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-			-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	2		腸管出血性大腸菌感染症	1	6	63
	腸チフス	-	-	-	パラチフス	-	-	-			-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	3	ウエストナイル熱	-	-	-		A型肝炎	-	2	9
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-		オウム病	-	-	1
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-		キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-		コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-		重症熱性血小板減少症候群	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-		ダニ媒介脳炎	-	-	-
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-		つつが虫病	-	-	1
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-		鳥インフルエンザ	-	-	-
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-		日本紅斑熱	-	-	3
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-		鼻疽	-	-	-
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-		ヘンドラウイルス感染症	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	ポツリヌス症	-	-	-		マラリア	-	-	2
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-		リッサウイルス感染症	-	-	-
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-		レジオネラ症	-	10	28
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-			-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	2	17	ウイルス性肝炎*3	1	2	9		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	4	34
	急性脳炎*4	-	3	14	クリプトスポリジウム症	-	-	1		クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	3	2	後天性免疫不全症候群	-	1	21		ジアルジア症	-	1	4
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	-		侵襲性肺炎球菌感染症	-	11	35
	水痘（入院例に限る。）	-	-	6	先天性風しん症候群	-	-	-		梅毒	-	9	25
	播種性クリプトкокクス症	-	1	1	破傷風	-	-	-		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	風しん	-	-	-		麻しん	-	-	-
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-		-	-	-			-	-	-



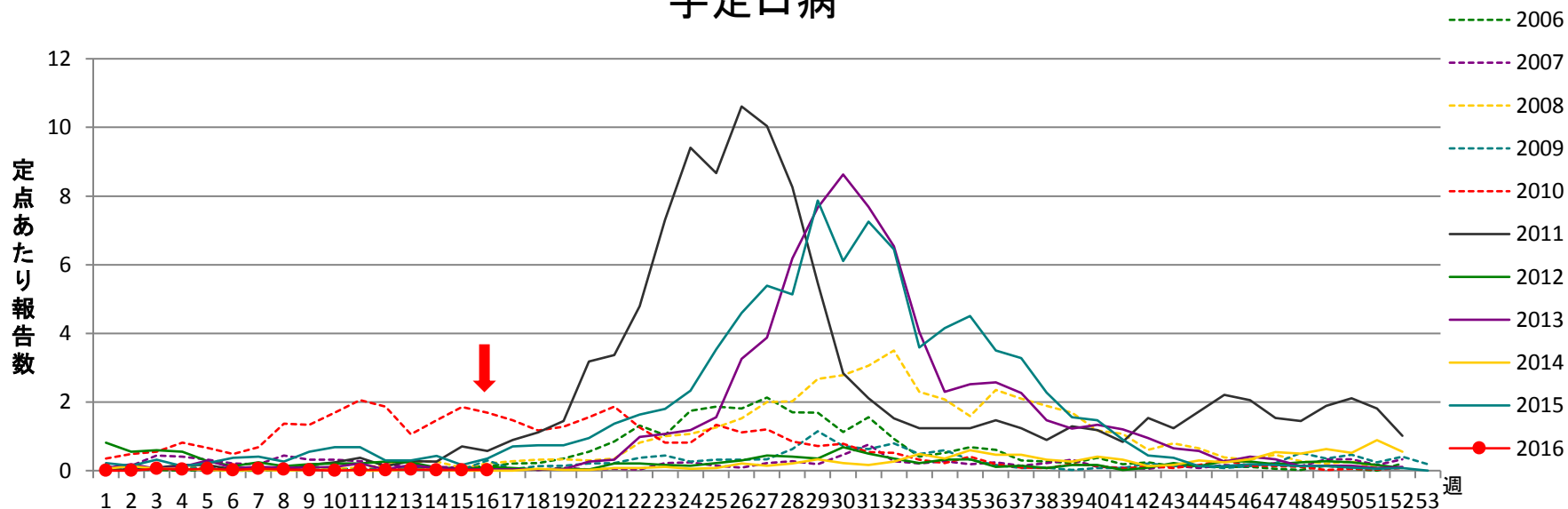
感染性胃腸炎



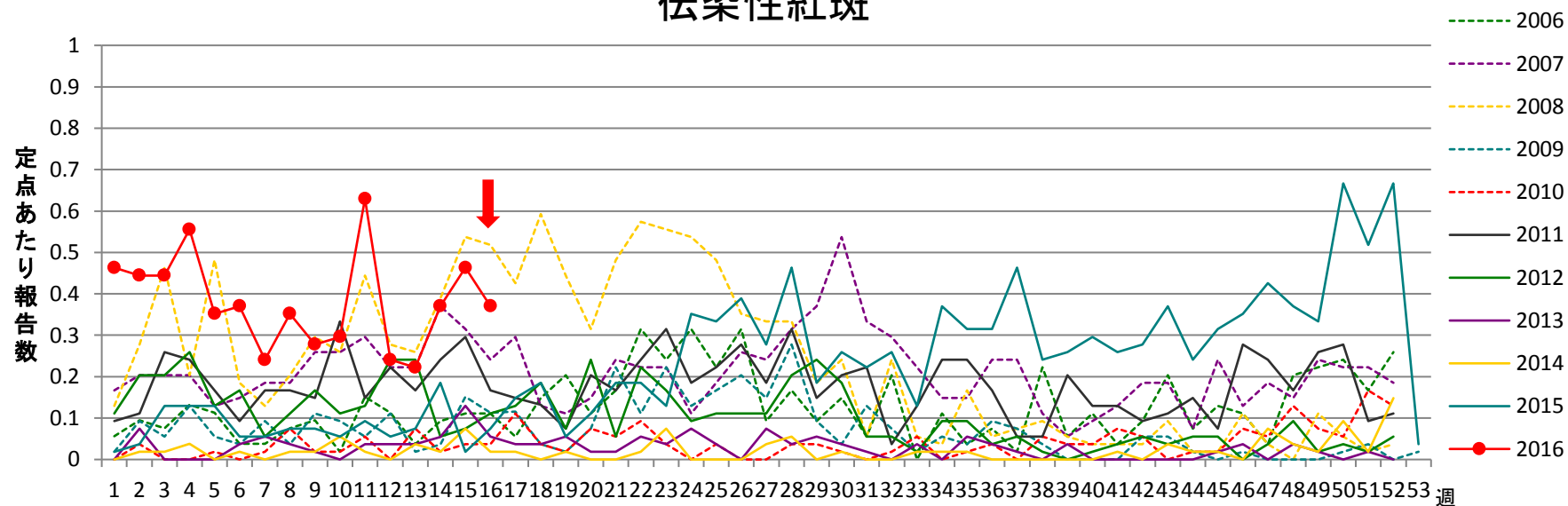
水痘



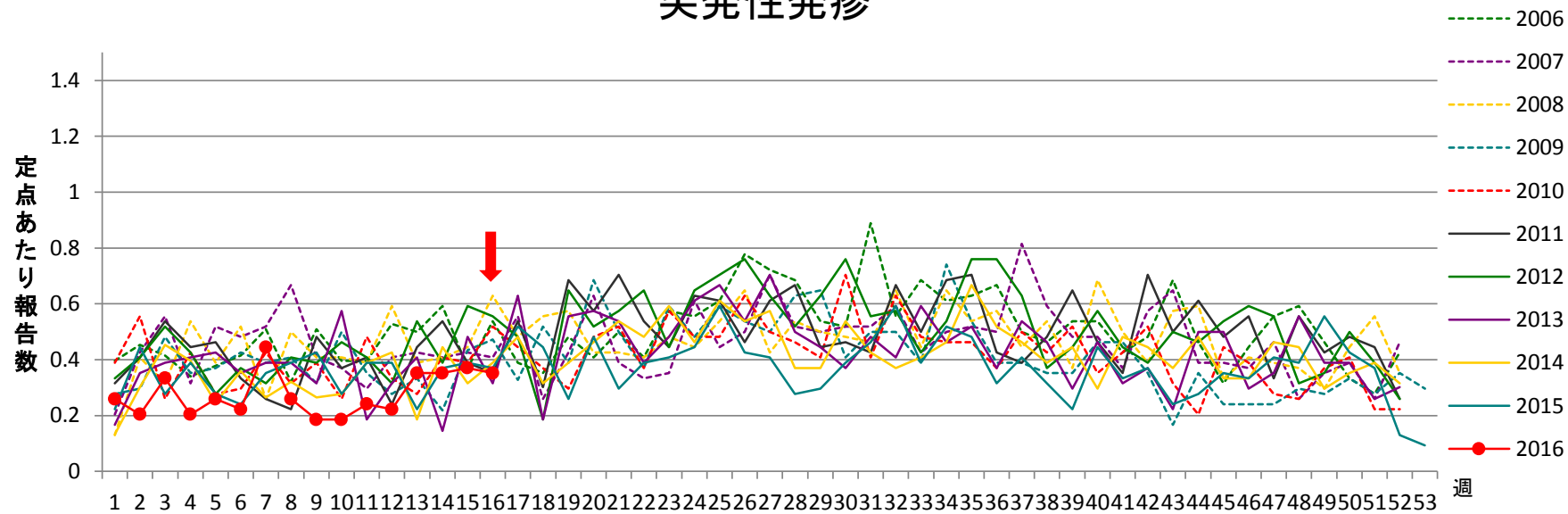
手足口病



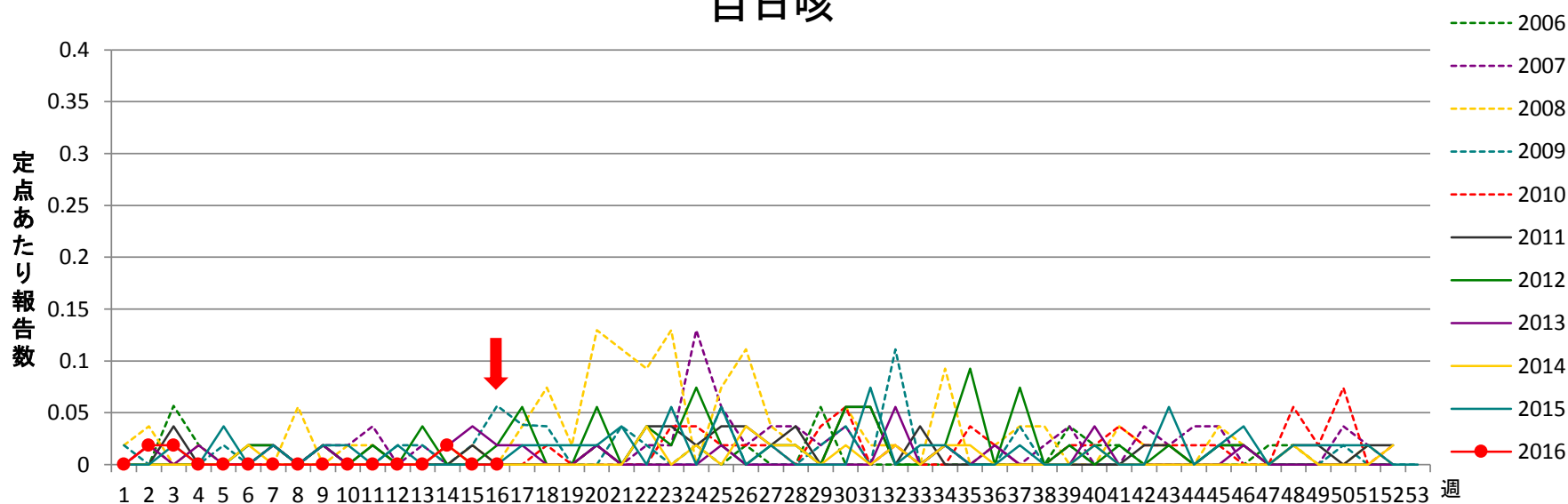
伝染性紅斑



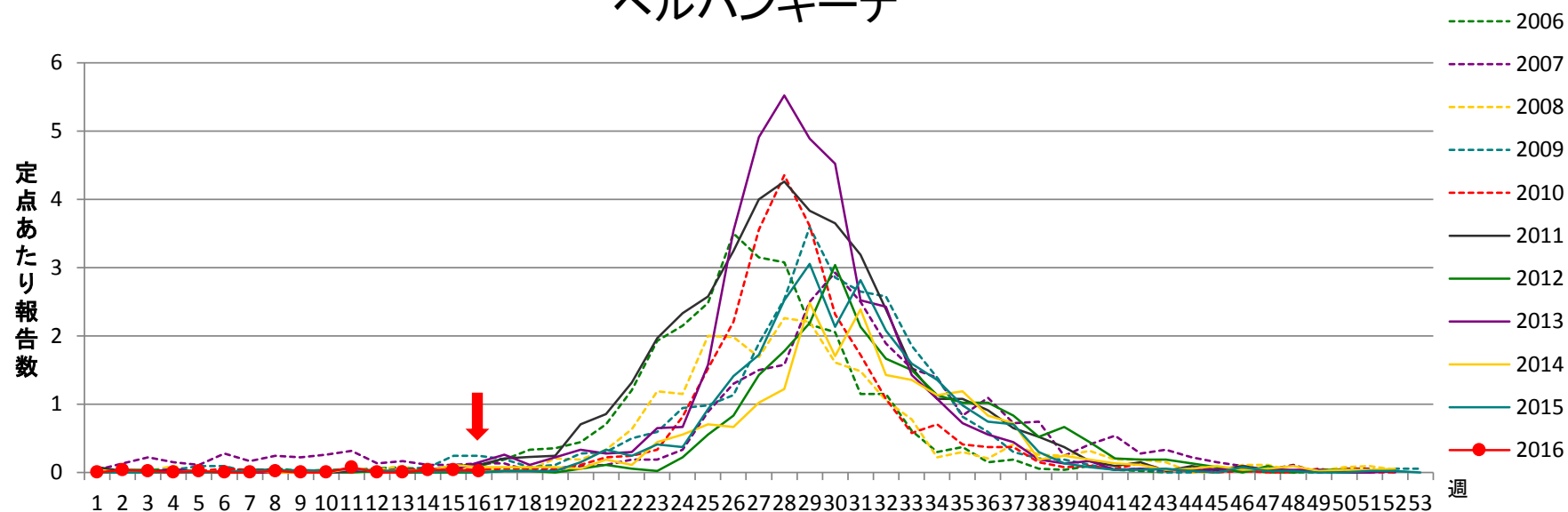
突発性発疹



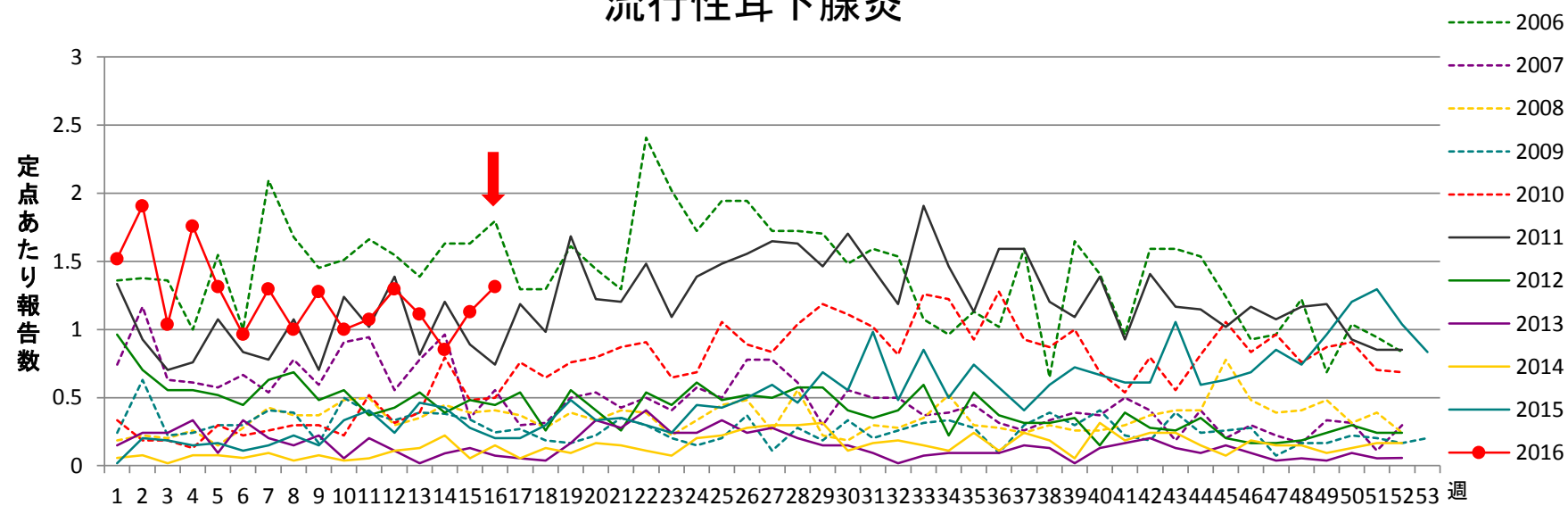
百日咳



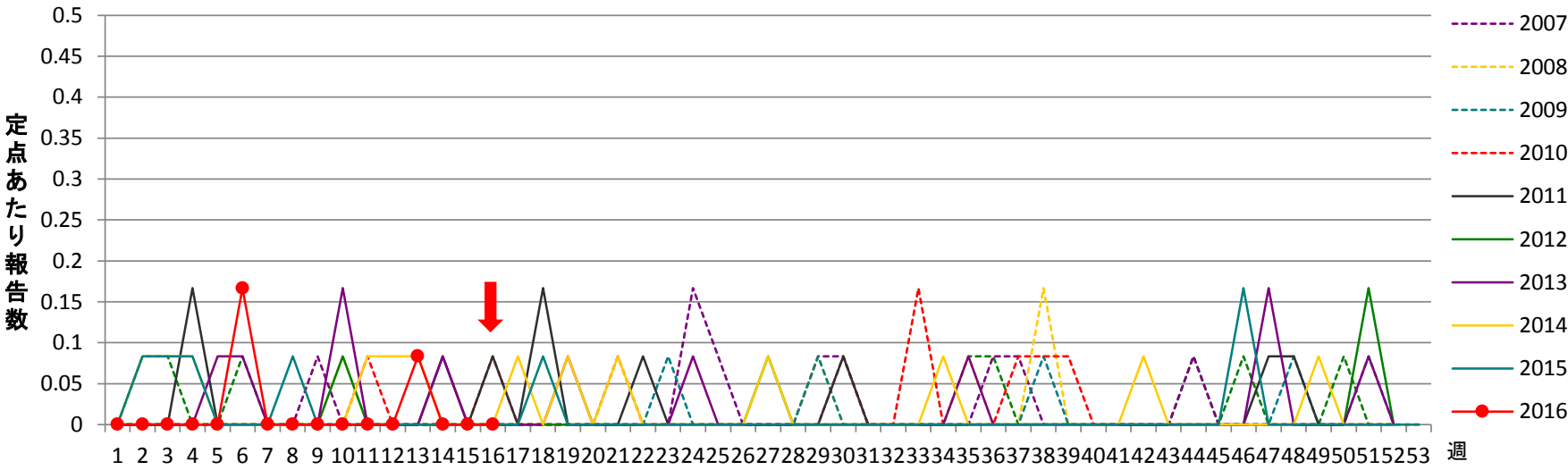
ヘルパンギーナ



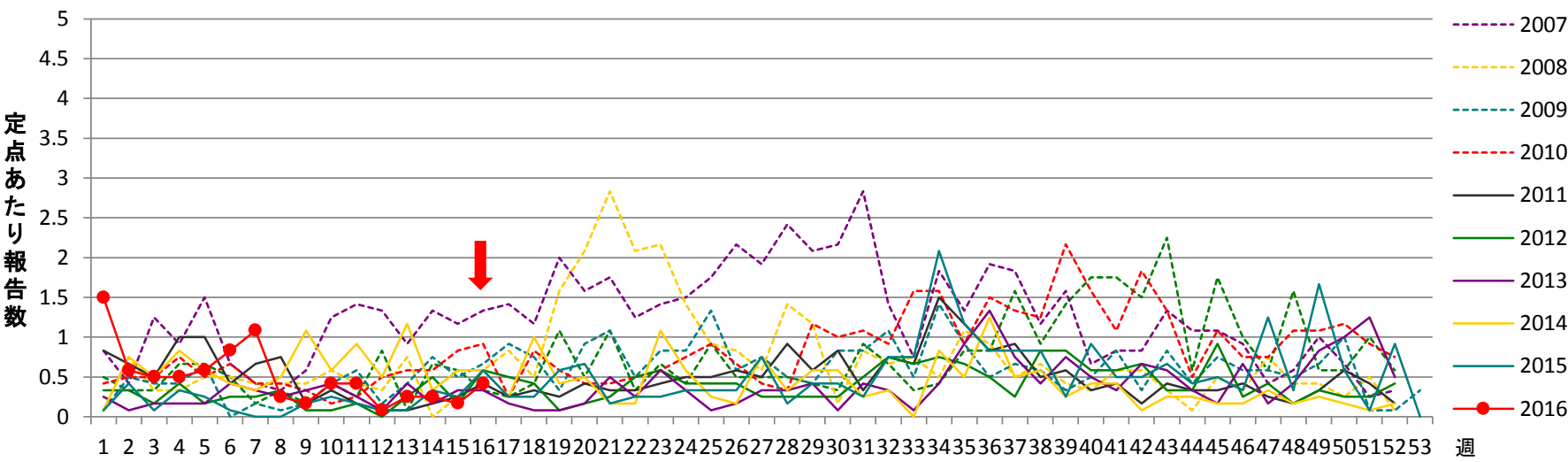
流行性耳下腺炎



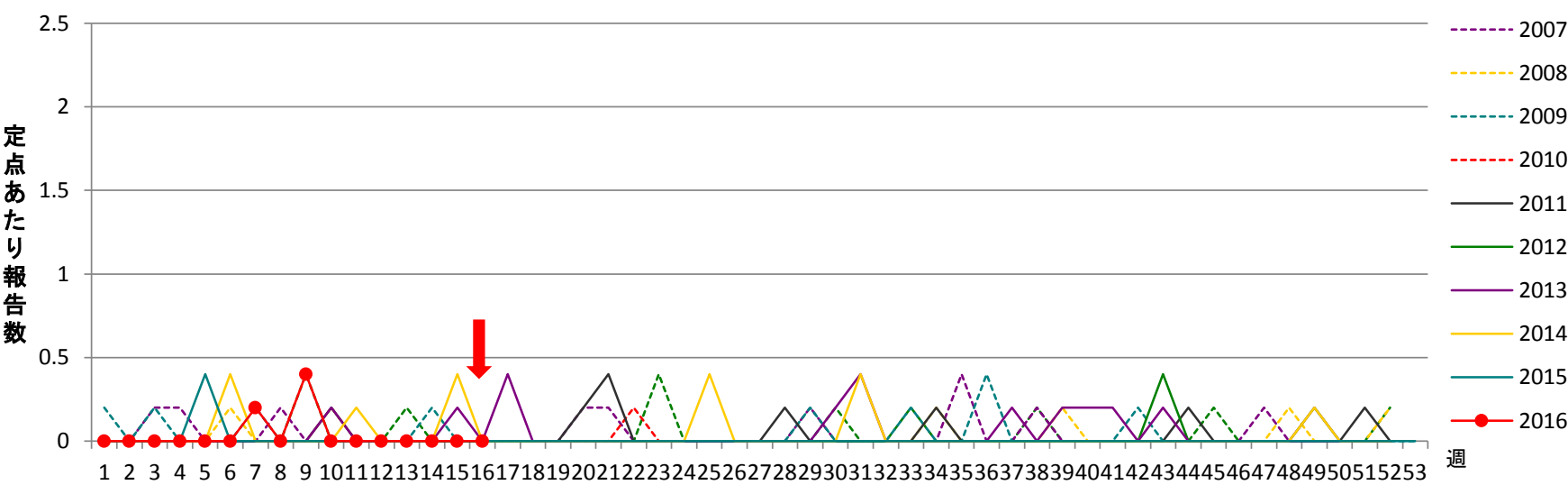
急性出血性結膜炎



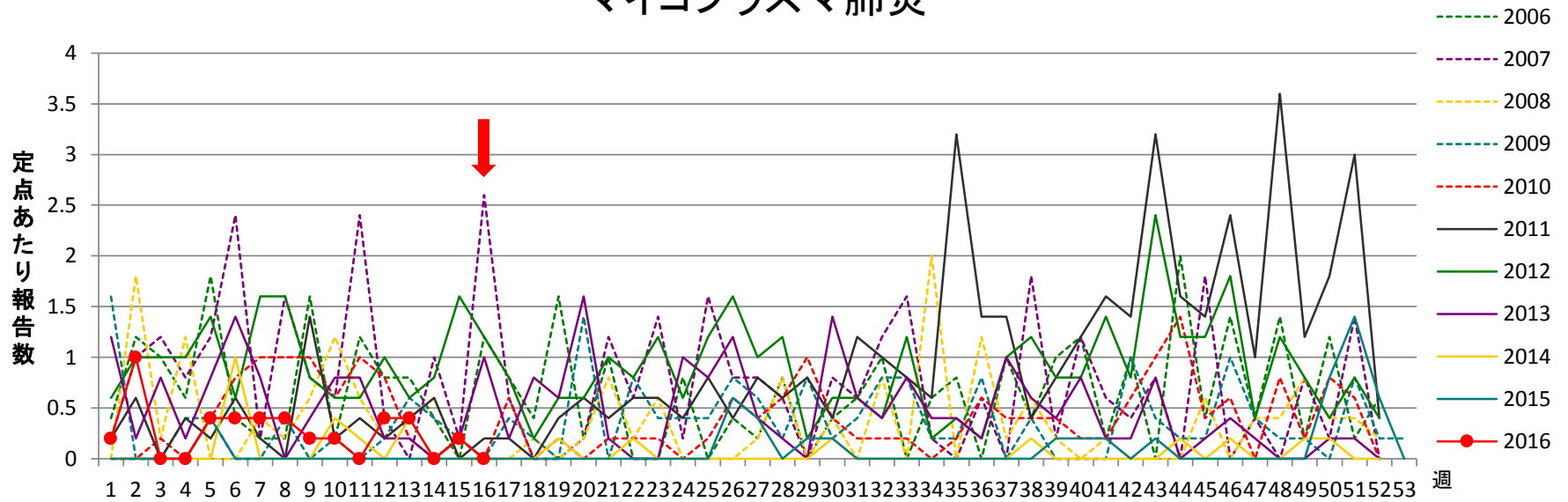
流行性角結膜炎



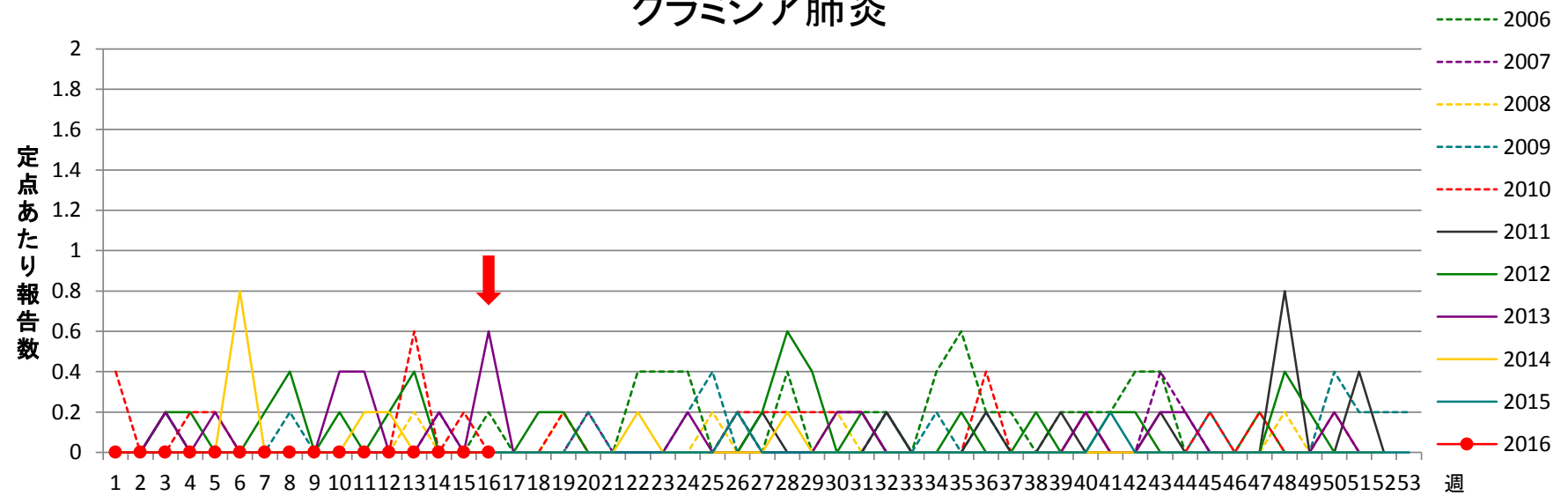
細菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

